

私たちファミリー・サポート提供会員は、善意をもとに同じ地域に住む保護者の皆さんと子どもたちのお手伝いをしています。その点にかんがみ、以下のことをご理解ください。

「それくらい、しますよ」はナシ！

- 自治体のファミリー・サポートとして決められたこと以外のお手伝いは、絶対にしません。
- 予定とは違うお手伝いをその日になって求められた場合、「できません」とお断りします。

「あなたの大切なお子さんをお預かりします」と実際に言葉でお伝えになっている提供会員さんの言葉を拝借しました。「他人に預けるんだ」という認識を保護者にも。

こちらも同上

- あなたの大切なお子さんをお預かりするのですから、お子さんがケガなどをしないように私はできる限り努めます。けれども、お子さんたちは元気ですから、転ぶ、ぶつかる、はさむといったことが起きない、子どもがケガをしないという保証はできません。
- あなたのお子さんが私の言うことを聞かず、危険なことをした場合にははっきり叱ります。そして、お子さんがしたことをあなたにお伝えします。「うちの子がそんなことをするわけない」とおっしゃる場合、お預かりはできません。
ファミリー・サポートの機能のひとつは、「子どもを地域で育てること」であり、叱るべき時は叱る必要があります。

保護者が自分の子どもの姿を知らず、提供会員の報告に対して苦情を言うケースもあります。

- お子さんの安全を守るため、歩く時などは常に手をつないでいただきます。お子さんをお預かりする際に、あなたとお子さんと私の3人で必ず、「外を歩く時は、〇〇（私の名前）の手をぎゅっとしてね」と約束しましょう。
この約束をしても手をつながなかった時は、お伝えします。

実際にリードを使うのは難しいと思いますが…。

提供会員の方から教えていただいた方法。保護者の目の前で、保護者とも約束するところが鍵。

- それでも、お子さんが走り出してしまう場合があります。乳児のお子さんの場合、私が持参している子ども用のリードをつけさせていただくことがあります。
- お預かりしている間にお子さんが眠ることもあります。その時は、できる限りお子さんのそばにいて、お子さんを仰向け（0歳、1歳児の場合）にするよう努めますが、そばを離れざるをえないことがある（トイレ、荷物の到来等）点はご了承ください。

最低限、0歳、1歳は常に仰向けに。
「眠っている間はそばについて見ている」が原則ですが、その場を離れなければいけない事態は必ず起きますので。

「元気です」と言って、体調の悪い子どもを預けるケースも現実にはあります。保育園等から預かる場合、これは難しいのですが…。

- その日の朝からお子さんの体調に異常がないこと、熱がないことなどを、お預かりする際に必ず確認させていただきます。
(その日の体温、体調などを依頼会員に書いてもらう小さい紙を用意してもよい。)